

口承文芸

アイヌ民族は文字を持ちませんでしたが、様々な情報を語り伝えてきました。物語は、節つきで語られるものと、節なしで話されるものに分けられます。節を



佐賀 彩美 (さが あやみ)

一般社団法人北海道開発技術センター
調査研究部 研究員

北海道出身。北海道大学法学部卒業。モンレー国際大学院(現ミドルベリー国際大学院モンレー校)通訳翻訳学科修士課程修了。通訳案内士。

つけるのは神に語り聞かせるという意味があるので。アイヌの人々は節、つまりメロディーをつけなければ神様は人の言葉の意味を理解することができなくと考えていました。確かに、アイヌに限らず、世界中の人々の神への語りかけである「祈り」は、必ずと言っていいほど節がついています。仏教のお経、神道の祝詞、キリスト教の讃美歌やグレゴリオ聖歌、コーランの朗誦と皆、節がついているのも偶然ではないかもしれません。アイヌ文化では、人の話が通じないものは神であるといひます。従って、赤ちゃんのための子守歌には必ず旋律がついているのも、同じ理由だそう。もしかすると、人類の祖先は、森羅万象のあらゆる音を神の言葉として聞き、理解できないけれども神に通じる言葉、つまり「音」に願いを託せば神様に届くのではないかと考え、そこから音楽が生まれたということもあり得るのではという気がします。

アイヌの口承文芸は、英雄を主人公とする物語、英雄叙事詩(本道の西南部ではユーカラ、東北部ではサコロベ、樺太ではハウキ)、神々の物語である神謡(道西南部ではカムイユーカラ、東北部及び樺太ではオイナ)や様々な物語である散文説話(ウエベケレ、トゥイタッ、イソイタッなど)の3種類に大別されます。このうち、英雄叙事詩と神謡は節つきで語られる場合と、節なしで語る場合があり、散文説話は節なしで語られます。前二者は、神に奉納される場合は必ず節つきです。節は伝承されたもの以外に、演者が自作の節

を付け、炉の縁で薪の端材やキセルなどで拍子を取りながら表現豊かに語りました。英雄叙事詩は、文字どおりスーパーヒーローの物語で、何日もかけて語られ

る長いものです。人々は囲炉裏の火を囲みながら、何世代にも亘って語り継がれてきた物語を、脳裏にアニメのような画像を描きつつ聞き入ったものでした。

神謡は神々の物語ですが、この世の動植物から自然現象までを含む万物を神としたアイヌ文化では、「神々」は蜘蛛やカエル、雀、カラス、沼貝だったりします。知里幸恵さんが史上はじめて原文対訳した「アイヌ神謡集」(岩波書店)はこのような神々の愉快なお話です。この神様たちはとても人間臭く、もちろん良いこともしますが、失敗したり、悪巧みをして偉い神様から罰せられることもあります。また、神々の声は各々リズムカルに表現され、思わず引き込まれるほどです。例えば、カエルはトーロロハンロック・ハンロック、雀はハンチキキー、トガリネズミはハンキリキリといった具合で、その間に語りの節が五、七調で挿入され、少し口ずさんただけでも何となく楽しい気分になります。

アイヌのお話は、自然と関わりが薄い現代人にとっては、単なるお伽噺のように思われますが、アイヌの人々には、常に生き物と「意思疎通」をはかりながら自然界で生き抜くための現実としての知恵の宝庫でした。そして、そこから無数の物語が紡ぎだされたのです。実際、カラスの様々な鳴き声を聴き分け、来客が魚を持って訪れるのがわかったという話もあります。私達もカラス語が理解できたとしたら、どんなにか面白いことでしょう。

藤村 久和 氏 北海学園大学名誉教授 北日本文化研究所代表 アイヌ語地名研究会会長

アイヌ学全般(精神文化・口承文芸・衣食住・民族医療(整体ほか)等)を研究領域とすると共に、アイヌの人々が自然を管理することなく、いかに共存してきたかについて、その思想や哲学を自ら学び・実践している。また、アイヌ民俗文化財調査(北海道教育委員会)に従事し、道内に居住する古老の伝承話の聞き取り作業を行い、その成果が例年報告書として刊行され、資料篇等も随時刊行している。近年は、食育コーディネーターとして北海道の食育計画にも参画する傍ら、國學院大学北海道短期大学部(滝川市)で開催のペカンベ祭で伝統料理を提供している。主な著書:『アイヌの霊の世界』(小学館、1982年)、『アイヌ、神々と生きる人々』(福武書店、1985年)、『アイヌ学の夜明け』(梅原猛氏との共編、小学館、1990年)、『知里真志保フィールドノート(6),(7)』(北海道教育委員会、2007、2008年)、『平成20~29年度アイヌ民俗文化財調査報告書アイヌ民俗技術調査1~9』(北海道教育委員会、2008~2017年)等。

*本稿は、アイヌ語地名研究会会長、藤村久和先生を講師として(一社)北海道開発技術センターが自主事業として実施しているアイヌ文化勉強会の内容を、藤村先生監修の下、筆者が取りまとめたものです。